

カナエル C衝撃吸収フロア VC

R-Design

C-Design

施工のポイント

※施工については必ず、施工説明書に従って正しく施工してください。

木質床材

一般住宅

マンション
直貼り

リフォーム
向け

衝撃吸収
床材

天然木
フロア

化粧シート
フロア

根太施工

二重床施工

捨貼り施工

防音・直貼り

直貼り

上貼り

框・式台

階段・手摺・
室内はしご

内壁材

あかり
サポート

ぬれ縁

ラスカット

構造用
ハイベストウッド

P&C-MJ
SYSTEM

設計・施工
資料編

製品掲載
ページ

146

フロア施工

1 墨出しする

周囲の納まりを考慮し、貼始めの基準線を墨出ししてください。

2 割付けする

貼り方は、「レンガ貼り」または「千鳥貼り」とします。平行貼りは行わないでください。

基準線に沿ってフロアを仮並べし、割付けに従って切断します。



平行貼り



レンガ貼り

- 切断の際、壁とフロアに3～5mm程度すき間を設けてください。

3 際根太を施工する

防音フロアの施工端部が上がり框／床見切り／掃き出しサッシ／ドア枠／和室敷居等の場合、必ず際根太を使用してください。

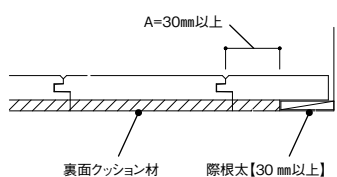
内装ドア等の重量物をフロア面に施工する場合、裏面のクッション材を取除き、際根太を入れてください。
壁周囲の巾木下は、際根太を使用しなくても構いません。以下の点に留意し、施主様／ゼネコン様／施工業者様で協議し、仕様をお選びください。

際根太を使用	壁際に家具を置いた際、室内側に傾くことがあります。この場合、家具の転倒防止器具等をご使用ください。
際根太を不使用	壁際を歩いた際または家具を置いた際、巾木下部にすき間が生じます。

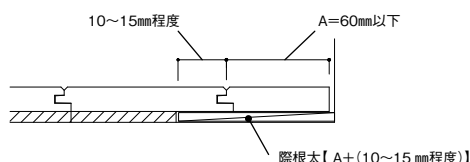
- ①同梱の際根太を30mm幅以上に切断します。

下図Aの長さは基本的に30mm以上確保①してください。仮にAが30mm以上確保できず壁際等フロア幅が60mm以下になる場合は、際根太の幅を隣接するフロアとのかん合部から10～15mm程度またぐ長さ②にしてください。

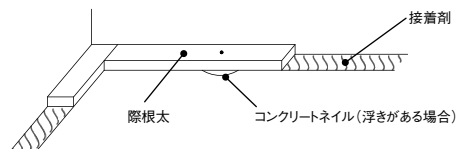
①



②



- ②下地に接着剤を塗布し、確実に固定します。



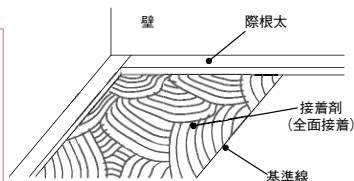
- 必ず浮きがないことを確認してください。浮きがある場合はコンクリートネイルを増し打ちしてください。

4 指定の接着剤を塗布する

500～600g/m²を目安に接着剤付属のクシ目ゴテを用いて全面に塗布します。

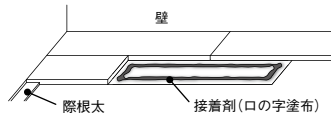


- 【施工にあたっての注意】を参照し、必ず指定の接着剤を使用してください。
●接着剤が多すぎると、かん合部からはみ出すことがあります。適量を塗布してください。



合板下地は、口の字塗布での施工も可能です。

フロア端から15mm程度の位置を目安に、直径6mm以上、【施工にあたっての注意】に記載の指定接着剤を塗布してください。

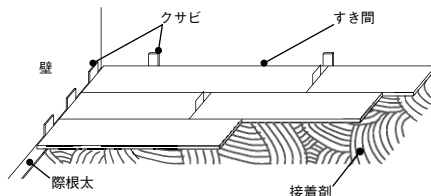


5 フロアの施工

以下の手順番号に沿ってフロアの施工を行います。

- ①割付けしたフロアを基準線に沿って1列分施工してください。

【施工ポイント⑥】を参照し、フロアどうしを軽く突き合わせるようにして、長手方向の継ぎ目すべて、短手方向の継ぎ目は2列おきに同梱のスペーサーを入れてください。



床暖房部分は、フロア短手メス下実にて【施工にあたっての注意】に記載の指定接着剤を塗布し、かん合してください。



- 壁とフロアの間は3～5mmのすき間を空け、クサビ等でフロアが動かないようにしてください。
●フロアと壁のすき間は、巾木や見切り等をフロアの上にかぶせ、見えないように納めてください。
●かぶせ量の少ないソフト巾木は使用しないでください。
●施工時は、かん合させるフロアをできるだけ近くにおき、すらし量を少なくしてください。すらし量が多いと接着剤溜まりができ、反り／突上げ等が発生します。
●フロアは無理に叩き込んだり蹴り入れないでください。
●ゴムハンマー等を使用する場合は、フロア表面に色付着や叩き跡等がないことを確認してください。黒色ゴムハンマーや劣化したゴムハンマーは使用しないでください。
●スペーサーは、当日の施工終了後に取り除いてください。翌日では取れなくなることがあります。
●接着剤がフロアの表面に付いたり、かん合部からはみ出した場合、乾いた布で速やかに拭き取ってください。硬化すると取れなくなります。

- ②1列目と同様にして2列目以降を施工してください。



- 施工中は1時間に1度、目すき／浮きがないことを確認してください。浮きが生じている箇所は重しを載せ、一晩放置してください。

- ③貼じまいのフロアを施工してください。また、フロアと壁のすき間はクサビ等で仮固定してください。



- クサビは接着剤硬化後、取除いてください。

カナエル C衝撃吸収フロア VC

R-Design

C-Design

木質床材

一般住宅

マンション
直貼り

リフォーム
向け

衝撃吸収
床材

天然木
フロア

化粧シート
フロア

根太施工

二重床施工

捨貼り施工

防音・直貼り

直貼り

上貼り

框・式台

階段・手摺・
室内はしご

内壁材

あかり
サポート

ぬれ縁

ラスカット

構造用
ハイベストウッド

P&C-MJ
SYSTEM

設計・施工
資料編

製品掲載
ページ

146

281

施工のポイント

※施工については必ず、施工説明書に従って正しく施工してください。

養生

施工後は、工事完了まで以下に留意して養生してください。

- 表面にキズ／目すき／浮きがないことを確認してください。
- 工事完了までフロア用養生シート等で表面を十分に保護してください。
- 養生テープは床用養生テープを使用してください。
- 養生中、雨水等が養生シートにしみこまないようにしてください。
- 凹凸のある硬質の養生ボードは使用しないでください。
- 養生中、室内の換気は充分に行い、下地材やフロア等に結露等が生じないようにしてください。
- 養生部分に脚立や重量物を置く場合は、必ず養生の上に合板等を敷いてください。

施工ポイント ① 下地の含水率／不陸の確認

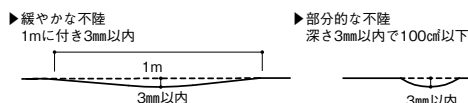
■コンクリート下地の場合

- 下地モルタルは最低3週間以上の乾燥期間をとり、含水率を10%以下にしてください。

【乾燥の目安】

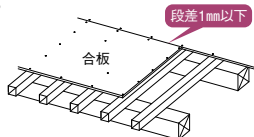
最も乾燥しにくい部分の下地表面に、1m×1m程度のポリシートの四周を布テープ（ガムテープ）止めにより被覆密閉し、24時間以上放置後、シート下のモルタル面が黒く変色しないことを確認してください。

- 下地が十分に乾燥し、平滑であることを確認してください。



■木下地の場合

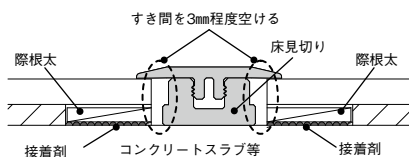
- 大引／根太／合板は、以下の含水率を満たす乾燥材を使用してください。
大引／根太：15%以下
合板：14%以下
- 合板の継ぎ目部分に段差がないよう1mm以下に調整してください。



施工ポイント ② 長スパンで施工時の床見切り使用

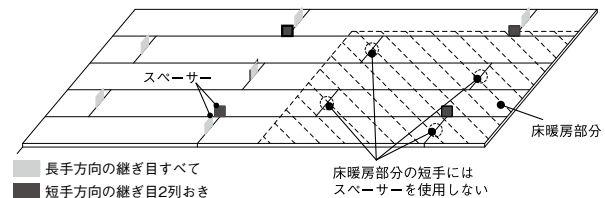
- フロアを長手方向に連続して8枚以上施工する場合、必ず8枚ごとにかぶせタイプの床見切りを使用し3mm程度のすき間を空けて施工してください。

玄関～廊下、リビングなど長スパンで施工する場合、リビング入口／ドア下にかぶせタイプの床見切りを使用してください。



施工ポイント ③ かん合部にスペーサーを使用

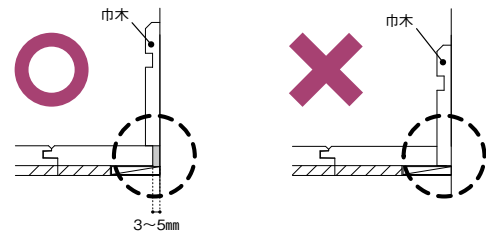
- フロアどうしを軽く突き合わせるようにし、長手方向の継ぎ目すべて、短手方向の継ぎ目は2列おきに同梱のスペーサーを入れてください。



- 無理に叩き込んだり、蹴り入れたりしないでください。
- スペーサーは、当日の施工終了後に取除いてください。翌日では取れなくなることがあります。
- 床暖房を使用する場合、床暖房部分の短手はスペーサーを使用しないでください。

施工ポイント ④ 壁際のすき間確保

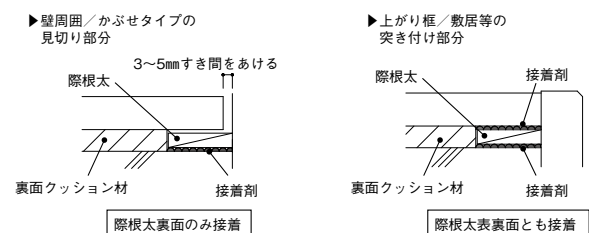
- 巾木はフロア施工後に取付けとして、クサビ／合板等を使用してフロアと壁際に3～5mmのすき間をあけて施工してください。



- かぶせ量の少ないソフト巾木は使用しないでください。

施工ポイント ⑤ 際根太の施工

- 際根太は、図を参考に接着剤を塗布して施工してください。



製品掲載
ページ

146

281

カナエル C衝撃吸収フロア VC

R-Design

C-Design

施工のポイント

※施工については必ず、施工説明書に従って正しく施工してください。

木質床材

一般住宅

マンション
直貼り

リフォーム
向け

衝撃吸収
床材

天然木
フロア

化粧シート
フロア

根太施工

二重床施工

捨貼り施工

防音・直貼り

直貼り

上貼り

框・式台

階段・手摺・
室内はしご

内壁材

あかり
サポート

ぬれ縁

ラスカット

構造用
ハイベストウッド

P&C-MJ
SYSTEM

設計・施工
資料編

施工にあたっての注意

- 施工は、必ず下表のいずれかの接着剤を使用してください。

	品 目	使用量
指定接着剤	コニシ株式会社 : KU-928R アイカ工業株式会社 : アイボンJW-280PRO 株式会社オーシカ : セレクティ UR-145	500 ~ 600g/m ²

- ⚠ ●施工中は、十分に換気を行ってください。
- 接着剤塗布後、**15分以内**にフロアを貼付けてください。また、一度に塗布する面積は**5m²以内**にしてください。
- フロアの開梱は施工直前に行ってください。開梱後12時間以上放置すると寸法安定性を損ないます。
- 施工前に必ず仮並べをして、色柄の調和を見てください。極端に色／柄／品質の問題がある場合、お知らせください。**(施工後における苦情／お取替えについては応じかねます)**
- 頻繁に水がかかる場所／湿気の多い場所には施工しないでください。
- 室温が**5℃以下**の場合、施工しないでください。接着剤の硬化不良が生じます。
- フロアの固定には、**絶対に釘を使用しないでください。**

下地施工

1 下地を確認する

- 下地ごとに、フロア施工に適切な状態であることを確認します。

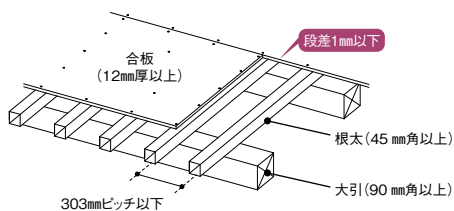
■コンクリート下地の場合

- 下地のゴミ／ホコリ等を取除き、清掃を行います。次に、**【施工ポイント①】**を参照し、平滑で不陸がないことを確認してください。

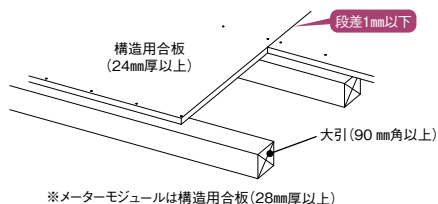
■木下地の場合

- 合板の短手継ぎ目部分は、必ず根太／大引上で行い2mm程度のすき間を設けてください。
- 合板／根太および大引の固定にはウレタン系接着剤を塗布しスクリーネイルか木ネジを303mmピッチ以下で頭が出ないように打ち込んでください。なお、スクリーネイル／木ネジの長さは合板の2.5倍以上、根太の場合は2倍以上としてください。

【在来工法】



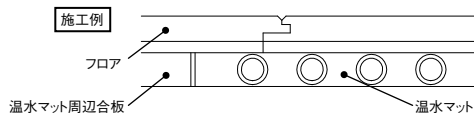
【根太レス工法】



- ⚠ ●下地材が雨ぬれしていないことを確認してから施工してください。
- 大引／根太／合板は、**【施工ポイント①】**を参照し、指定の含水率を満たす乾燥材を使用してください。
- 根太は、必ず45mm角以上を使用し、根太間隔は303mmピッチ以下で平らに仕上げてください。
- ピアノ等の重量物を置く場合、根太本数を増やす等、下地補強をしてください。
- 根太組した面に段差がないことを確認してください。段違いを防ぐため根太は両面ブレナー掛けしたものをご使用ください。

2 床暖房使用の場合、温水マットを確認する

床暖房使用の場合、温水パイプに穴が空いていないこと、段差や床鳴りがないことを確認してください。



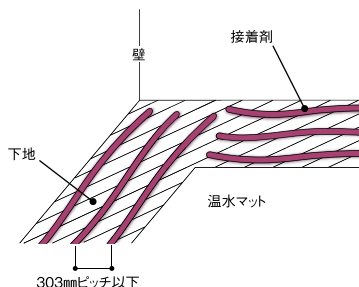
- ⚠ ●床暖房使用の場合、床暖房用防音フロアを施工してください。

- ⚠ ●床暖房用防音フロアは床暖房ヒーター（小根太なし温水マット等）用フロアです。床暖房ヒーター（小根太なし温水マット）はヒーターメーカーおよびガス会社の仕様に従い、下地に確実に固定されていることを確認してください。
- フィルムタイプの床暖房ヒーターや埋設式ヒーターには対応していません。

3 床暖房使用の場合、温水マットの周囲を施工する

床暖房使用の場合、温水マットの周囲を以下の手順で施工します。

- ①温水マット周辺部(斜線部)には12mm厚耐水合板を使用します。
- ②温水マット周辺合板と壁および温水マットは3mm程度のすき間を設けてください。
- ③温水マット周辺合板固定用接着剤(ウレタン系)を川の字状に**303mmピッチ以下**で塗布します。塗布量の目安は**200g/m²以上**です。
- ④温水マット周辺合板を釘で固定します。釘は「**コンクリートネイル** L=25 ~ 27mm」を使用し、**303mmピッチ以下**で固定します。



製品掲載
ページ

146